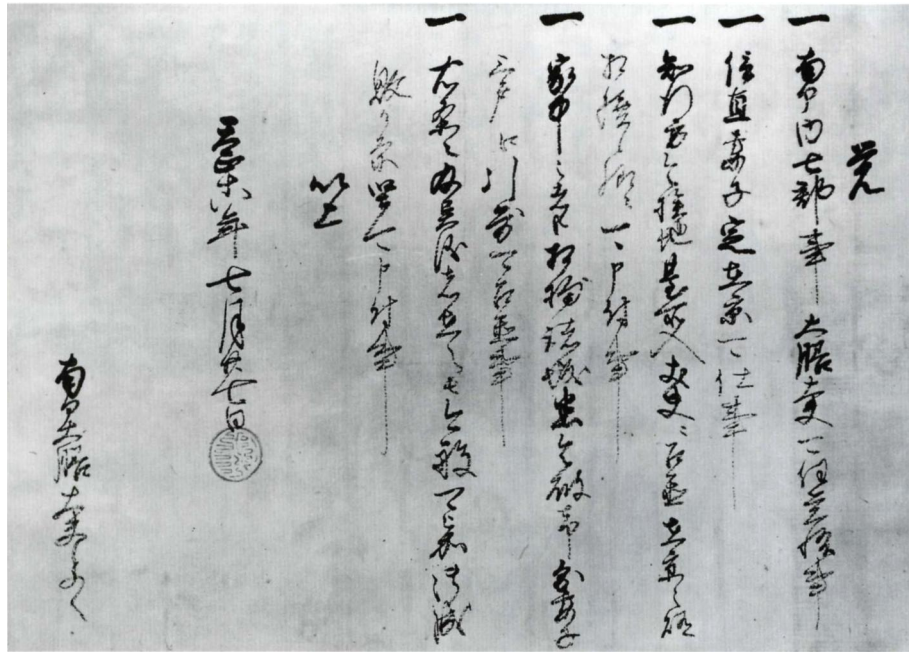


なんぶのぶなお おううしおき

南部信直と奥羽仕置



天正20年（1590）7月27日付 豊臣秀吉朱印状 南部信直宛（盛岡市中央公民館蔵）

1 豊臣秀吉の朱印状

◆盛岡藩の祖である南部信直は、天正 18 年（1590）7 月 27 日、豊臣秀吉から 1 枚の朱印状をもらいました。小田原（現神奈川県）の北条氏を屈服させた秀吉は、今度は東北地方の平定（奥羽仕置）を目的に、兵を北に向けたところでした。宇都宮に到着したのは 7 月 26 日ですから、この文書は、秀吉が宇都宮に着いた次の日にすぐ、信直に与えたものと考えられます。

2 朱印状が示す内容

◆信直がもらったこの文書は、書き出しが「覚」となっていることから、あくまでも「以下のことについて約束しました」という覚書とみるべきです。いきなり、信直の所領を安堵（所有権をそのまま認めること）したものとは考えられません。

◆第 1 条

南部のうち 7 郡は、大膳大夫（信直）が責任を持っておさめること。

◆第 2 条

信直の妻子は、京都に住ませること。

◆第 3 条

領内の検地をし、財源を確保して、京都在住の費用をつくること。

◆第 4 条

領内の家臣の城をこわし、その妻子を三戸城下に住ませること。

◆第 5 条

以上のことに背く者には秀吉が処罰を下すので、厳しく申しつけること。

◆最後にある「朱印」の印文はなかなか読み取れませんが、「秀吉」の 2 字をくずしたものとされています。

3 朱印状からわかること

◆第1条の「南部のうち7郡」には、いろいろな説がありますが、今のところ、^{ぬかのぶ}糠部・^{へい}閉伊・^{かづの}鹿角・^{くじ}久慈・^{いわて}岩手・^{しわ}志和・^{とおの}遠野の7か所が最も有力と考えられています。また、南部の「内」という書き方をしていることから、南部氏の所領が他にもあり、その内の7郡を指しているのかとも思われます。とすれば、ここで信直の所領から外されたのはどこでしょうか。推測の一つとしては、津軽が考えられます。

◆安藤氏との戦いに勝利して津軽地方を手に入れた南部氏は、^{つがるぐんだい}津軽郡代職を設けて津軽諸城を監督させました。しかし16世紀後半、^{おおうら}大浦城（現弘前市岩木）の^{おおうらため}大浦為信（のちの津軽為信）が独立の動きを見せると、南部氏の津軽支配は大きく動揺します。為信は、南部氏の客将として浪岡城に置かれていた^{きたばたけし}北畠氏を滅ぼし、さらに津軽郡代として石川城（現弘前市）に入っていた^{たかのぶ}石川高信（南部信直の父）を討ちました。◆津軽を制圧した為信の行為を、南部信直は秀吉に訴えました。秀吉は関東・東北に兵を送る前に「私戦は禁ずる」という触れを出して、^{しせん}私戦は禁ずる、^{そうぶじれい}惣無事令、為信は明らかにこれに違反したというのです。間に入った^{まえだとしいえ}前田利家も「為信はいずれ処罰されよう」という手紙を信直に送っており、為信に対する周囲の目は厳しかったようです。

◆天正17年末、為信は秀吉にじかに鷹を献上するなどして、懸命に中央への工作を行ったようです。その結果、津軽地方の支配はそのまま認められ、処罰されることはなくなりました。当然、南部氏の不満は大

きく、江戸時代まで尾を引くことになりません。「南部と津軽は^{けんえん}犬猿の仲」と言われるのはこういう事情からです。

◆ほかにも、江戸時代の^{さんきんこうたい}「参勤交代」を思わせるような部分（第2条）や、秀吉が全国支配の重要政策としてこだわった^{けんち}検地のこと（第3条）、あるいは、のちに徳川氏が示した^{いっこくいちじょうれい}一国一城令のもととも言える^{しろわり}「城割」（^{はきやく}領内城郭の破却）の実施（第4条）など、たいへん興味深い内容です。

4 朱印状拝領のその後

◆秀吉から朱印状を与えられた南部信直の地位は高まりました。しかしそれでも、信直に従おうとしない人々はまだ多かったのです。彼らは^{きょうぎ}「京儀」（都のやり方）を好まず、古くからの自分たちの生き方を貫こうとして、^{はんき}叛旗をひるがえしました。「糠部^{さくらん}錯乱」と書かれたのはこの頃のことです。

◆そういった人々の中で一目置かれていたのが、^{くのへまさざね}九戸政実です。政実は南部家当主の座をめぐる南部信直に反発し、兵を挙げました。窮地におちいった信直が秀吉に援軍を要請すると、秀吉は全国の大名に出陣を命じました。津軽為信も^{さんのへ}鎮圧軍への参加を命じられ、三戸城の近くまで来ています。

◆この^{くのへいっき}「九戸一揆」は、物量を誇る秀吉軍の圧倒的な力の前に鎮圧され、政実は処刑されました。その後、信直は領内経営に力を注ぎ、この地の安定に尽くしました。信直は慶長4年（1599）に亡くなりますが、その遺志は子の^{としなお}南部利直が受け継ぎ、寛永10年（1633）、^{こずかた}不来方（現盛岡市）に新城を築いて三戸から引き移りました。